



南京シリーズ

小泉家に残る戦争展 特別展示

利根山光人 ヒロシマ・ナガサキ・南京

会場/昭和のくらし博物館

2016年7月29日(金)~9月25日(日)

※会期中の金・土・日・祝日のみ開館。9月2日(金)~4日(日)は臨時休館。

メキシコ美術や古代遺跡に魅せられ、華麗な色彩、風土性豊かなスケールの大きな作品を多く残し、太陽の画家と呼ばれた利根山光人。あふれるような生命力に充ちた作品の創作の原点は、戦後の絶望と再生への希望でした。“戦中派”として生涯もがき、描き続けた利根山の戦争証言である版画シリーズです。



見どころ1 利根山光人と戦争

利根山が「自分が生きていくうちに描き残さなければならぬ」とずっと思い続けた反戦の思いと、戦中派の証言を表現した作品、ヒロシマ・ナガサキ・南京シリーズを展示します。

見どころ2 利根山光人と花森安治

利根山の青春は戦争の日々でした。制作の根底には戦争体験がありました。同じ原点を持ち親交の深かった、暮しの手帖社・花森安治のデスマスクを描いた作品を展示します。

見どころ3 利根山光人とメキシコ

メキシコ美術に出会い、風土や人々のくらしに強く惹かれ、スペインでピカソとミロに会い、原点を求めて表現活動を続けました。メキシコや遺跡をモチーフとした作品を展示します。

利根山光人 (とねやま こうじん)

1921年茨城県に生まれる。早稲田大学を卒業後、教員に。1945年5月に召集。終戦を迎える。美術教師となり、読売アンデパンダン展、自由美術家協会に出品。「佐久間ダム」「炭坑」などをシリーズで描く。1959年メキシコに渡る。以後度々メキシコ、インドなどを訪問して描き続け、個展を開催。1994年死去(享年72歳)。受賞多数。



昭和のくらし博物館

開館:金・土・日・祝日 午前10時~午後5時
入館料:大人500円 小学生~高校生300円
〒146-0084 大田区南久が原2-26-19
TEL&FAX / 03-3750-1808(開館時間内)
MAIL / mail@showanokurashi.com
URL / http://www.showanokurashi.com